

## 第2章

# 生活排水対策推進計画 策定地域の概要



### 1. 位置と沿革

#### (1) 位置

松山市は、愛媛県の県庁所在地で、愛媛県の中央部、松山平野に位置し、西は伊予灘に面し、北は今治市、東は東温市、南は伊予郡砥部町、松前町に接する市域面積 429.40 平方キロメートルのまちである。

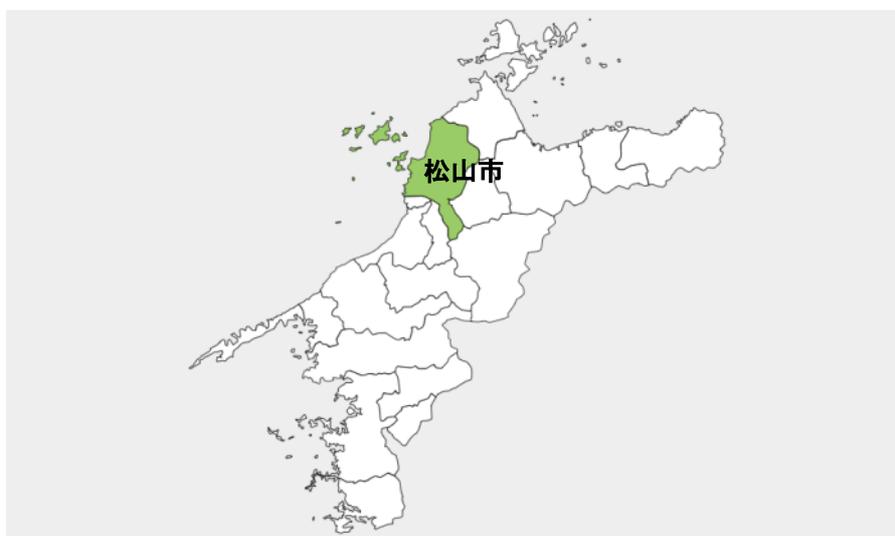


図 2-1 松山市の位置

#### (2) 沿革

本市は、松山城を中心に発展して来た旧城下町で、道後温泉で有名な古くからの温泉地であるとともに、俳人正岡子規や文豪夏目漱石などのゆかりの地として知られ、国際観光温泉文化都市の指定を受けている。松山の名は、慶長 8 年、加藤嘉明が築城した松山城にちなみ、名付けられたと言われている。

明治 6 年に愛媛県庁が設置されて県都となり、明治 22 年 12 月 15 日、市制を施行以来、政治・経済の中心都市として成長した。今日では総合的な都市機能を備え、平成 12 年 4 月には中核市へと移行し、平成 17 年 1 月には北条市・中島町と合併し、四国初の 50 万都市となった。

本市の産業は、日本最古といわれる道後温泉や松山城などを中心とした観光業、機械器具を中心とした製造業などが基幹産業であり、空港や港湾付近の沿岸部には工業地帯が広がっている。また、四国最大の人口を持つ都市として、商業など第三次産業も発達している。

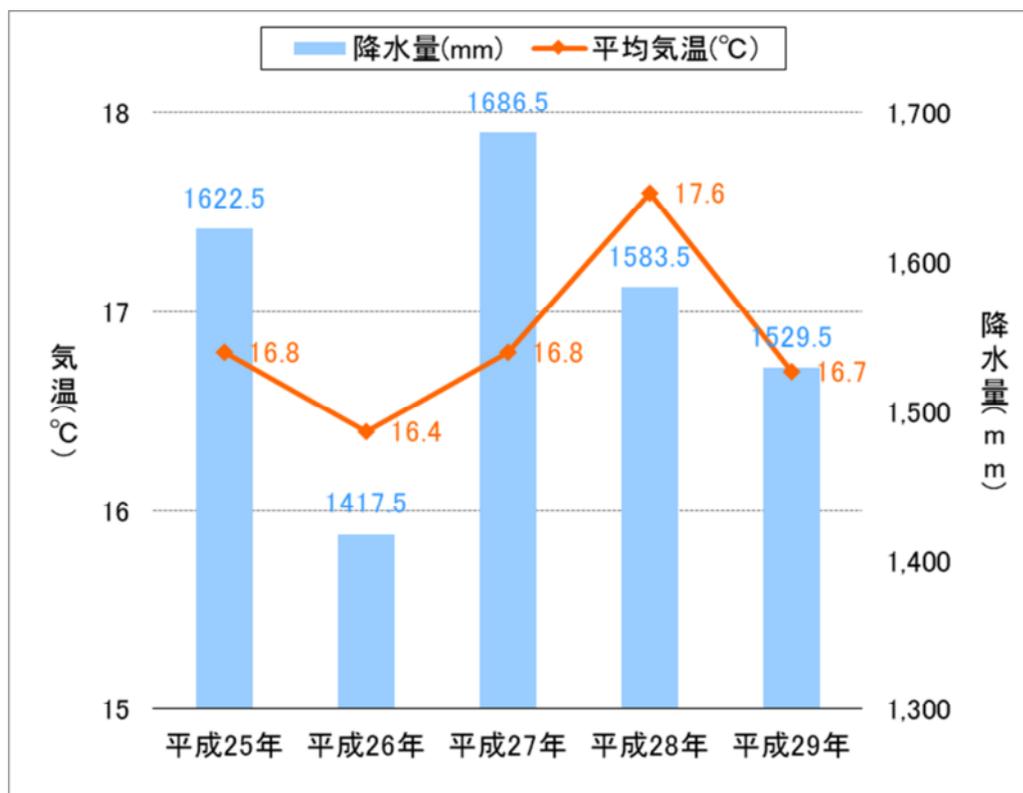
### 2. 自然条件

#### (1) 地勢

本市は、北西部の瀬戸内海に浮かぶ中島から高縄山系のすそ野の平野を経て、市域を東西に流れる一級河川重信川と石手川により形成された沖積層からなる松山平野へと広がっている。市内には、松山城のある分離丘陵を中心に、東西には緩やかな山地丘陵が散在し、市の南側には東西に走る中央構造線上に道後温泉が湧出している。

#### (2) 気候

本市の気候は、平均気温 17℃前後の温暖な瀬戸内海気候で、平均降水量も約 1,500mm 前後と年間を通じて少なめで、積雪もごく少量である。太平洋側の高知県に比べ、台風の通過などの自然災害も少なく、穏やかで恵まれた気候条件となっている。



資料:気象庁

図 2-2 松山市の気候

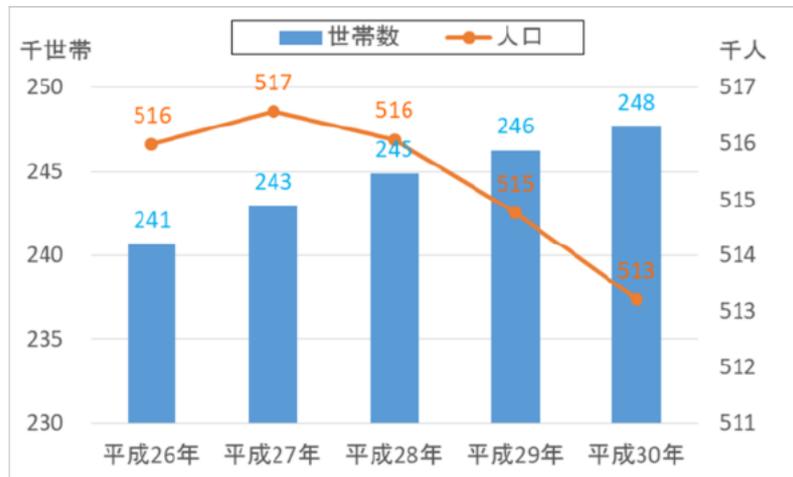
### 3. 社会条件

#### (1) 人口

##### 1) 人口の推移

本市の人口は 513,207 人、世帯数は 247,714 世帯（いずれも平成 30 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳登録者数）である。本市の人口は緩やかな減少傾向にあるが、世帯数は緩やかな増加傾向にある。

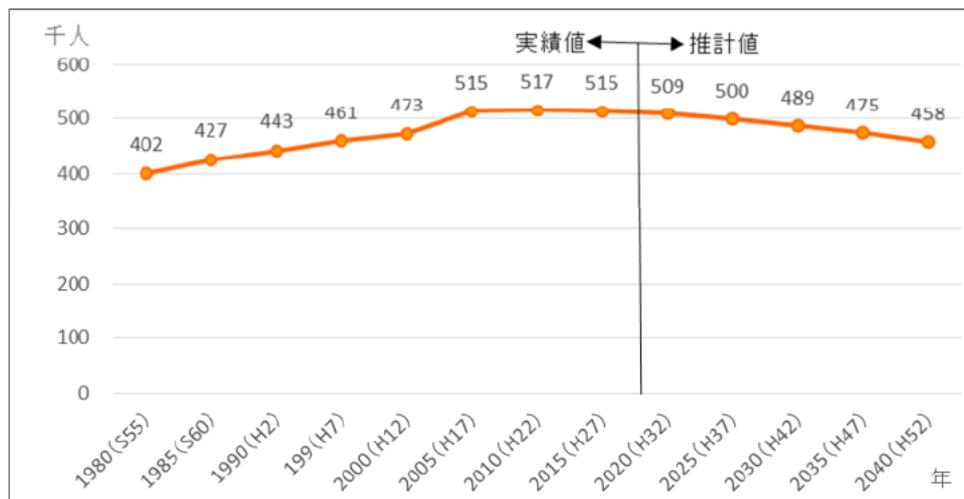
将来人口は、2040 年（平成 52 年）には 45.8 万人（2015 年（平成 27 年）比で 11%減）になることが見込まれている。



※ 人口と世帯数は、いずれも各年 4 月 1 日現在の住民基本台帳登録者数

資料：松山市文書法制課

図 2-3 松山市の人口



資料：松山市文書法制課、国立社会保障・人口問題研究所. 日本の地域別将来推計人口. 平成 30 年 3 月

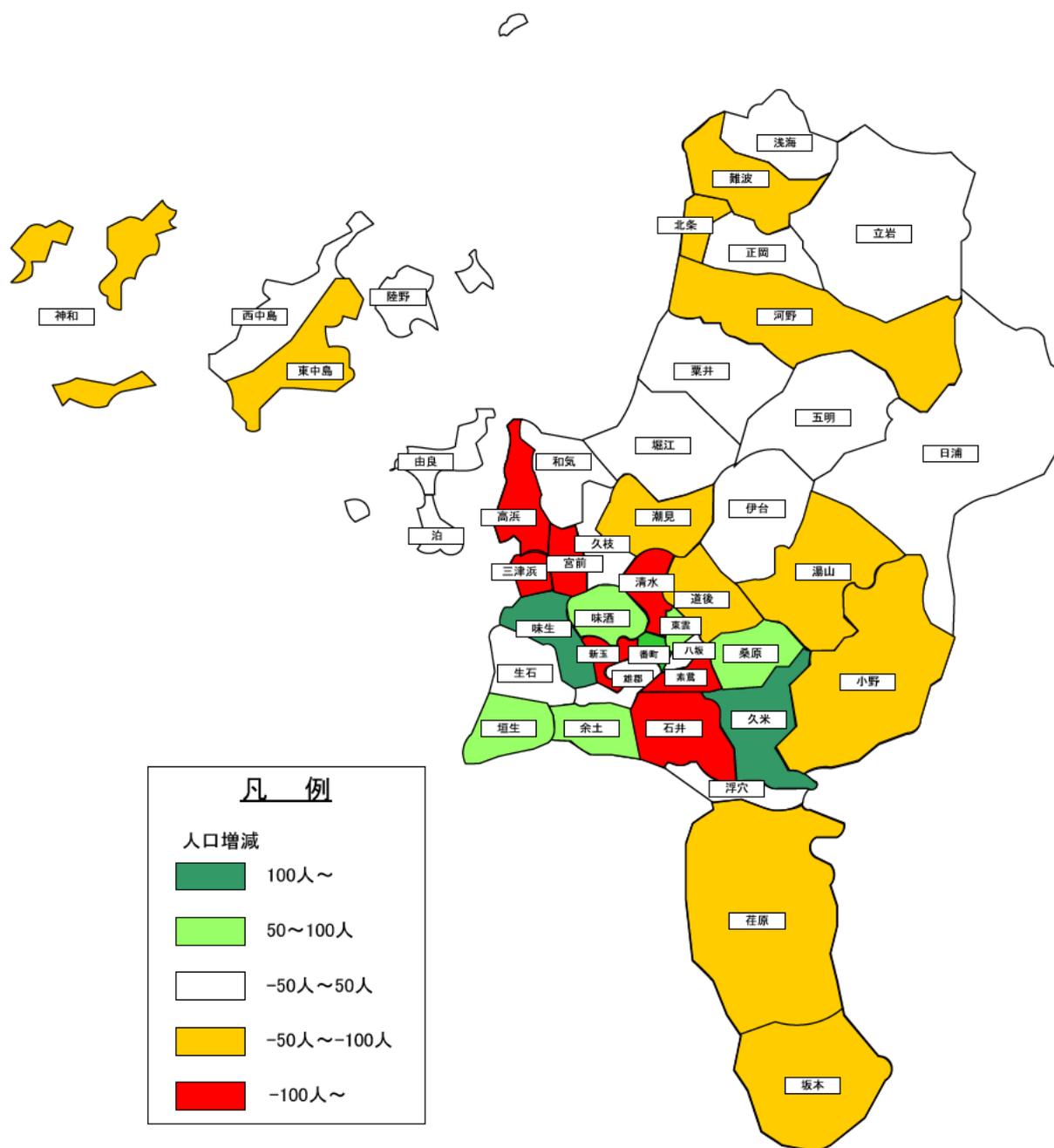
図 2-4 総人口の推移

## 第2章 生活排水対策推進計画策定地域の概要

### 2) 人口動態

平成 29 年の地区別の人口動態は、人口が前年より 100 人以上増えている地区は番町、味生、久米の各地区で、増加人口は味生が 198 人と最も多い。

逆に、人口が前年より 100 人以上減っている地区は素鷲、新玉、清水、宮前、三津浜、高浜、石井の各地区で、減少人口は清水が 174 人と最も多い。



資料:松山市の人口動態(平成 29 年)

図 2-5 地区別人口動態

## 第2章 生活排水対策推進計画策定地域の概要

### (2) 交通

本市の交通は、鉄道は JR 予讃線が南北に走り、伊予鉄横河原線・高浜線・郡中線が郊外を、路面電車が市街中心部を走っている。道路は国道 11 号・33 号・56 号・196 号・317 号が市街地中心部より放射状に走っている。市域南部には松山自動車道（四国縦貫自動車道）が東西に走り、松山 IC が位置している。

また、市域の北西には松山観光港・三津浜港・高浜港などからなる松山港が、市域の西には松山空港が位置し、それぞれ海と空の交通の起点となっている。



資料:松山市 HP(e~よ まちなび)

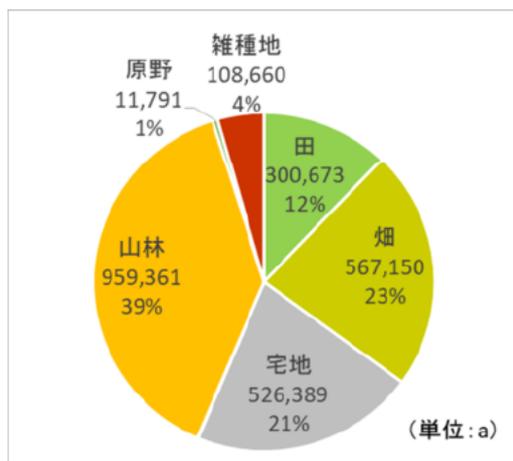
図 2-6 松山市の交通網

### (3) 土地利用

本市の地目別土地面積は、山林が 39%と最も多く、次いで畑 23%、宅地 21%、田 12%となっている（平成 28 年固定資産概要調書）。

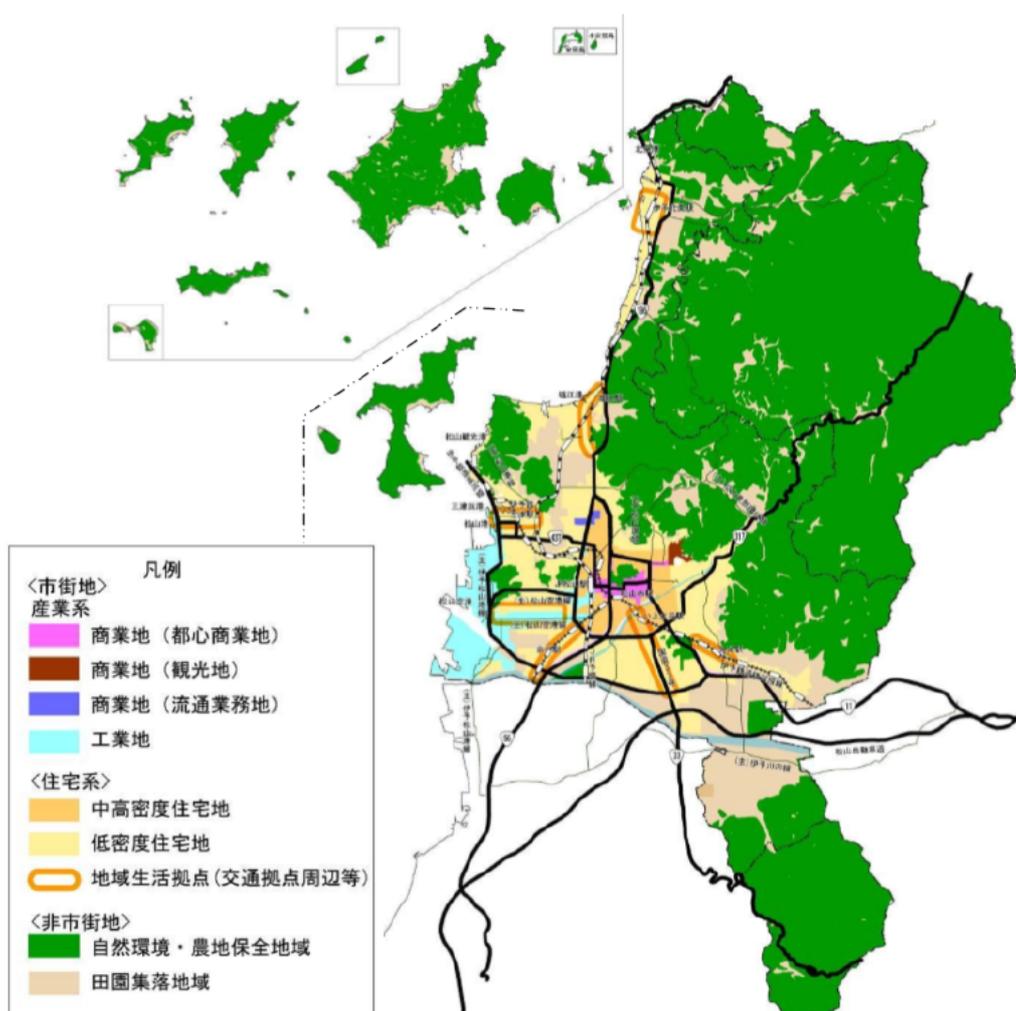
市域の中央は商業地及び住宅地となっており、その周辺には田園集落地域が広がる。また、北部の北条地区にも住宅地及び田園集落地域がみられる。市域北東部の広い地域と南東部には自然環境・農地保全地域が広がっている。市域南西部の臨海地区には工業地となっている。

## 第2章 生活排水対策推進計画策定地域の概要



資料: 松山市資産税課

図 2-7 地目別土地面積



資料: 松山市都市計画マスタープラン. 平成 23 年 3 月

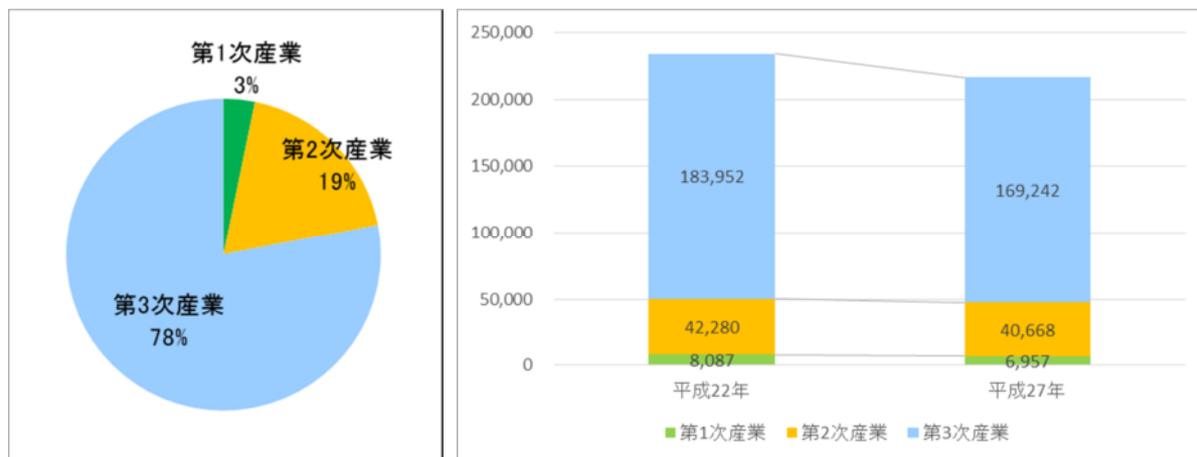
図 2-8 土地利用の方針図

## 第2章 生活排水対策推進計画策定地域の概要

### (4) 産業

#### 1) 産業別就業者数

本市の平成27年度の産業別就業者数の割合は、第1次産業3%、第2次産業19%、第3次産業78%で、平成22年度と割合にはほとんど変化はないが、就業者数はそれぞれ減少している。



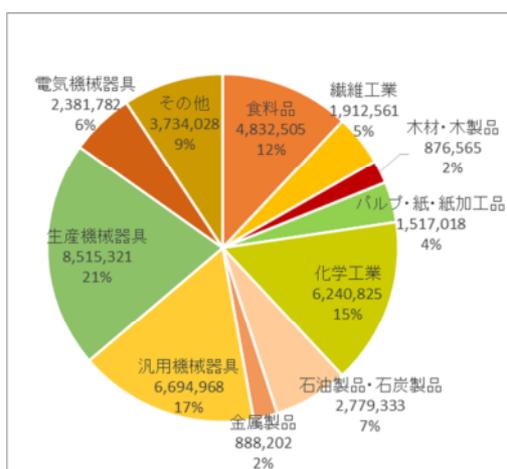
資料: 国勢調査

図2-9 産業別就業者数の割合と推移

#### 2) 工業

本市の平成26年の製造品出荷額は4,037億円、従業員数は14,046人、事業者数は401事業所となっている。

産業分類別製造品出荷額で最も多いのは21%を占める生産機械器具で、次いで汎用機械器具17%、化学工業15%、食料品12%となっている。機械工業では農業用機械製造やボイラー・水処理関連機器等の機械製造、化学工業では化学製品・化学繊維等が主要な産業となっている。



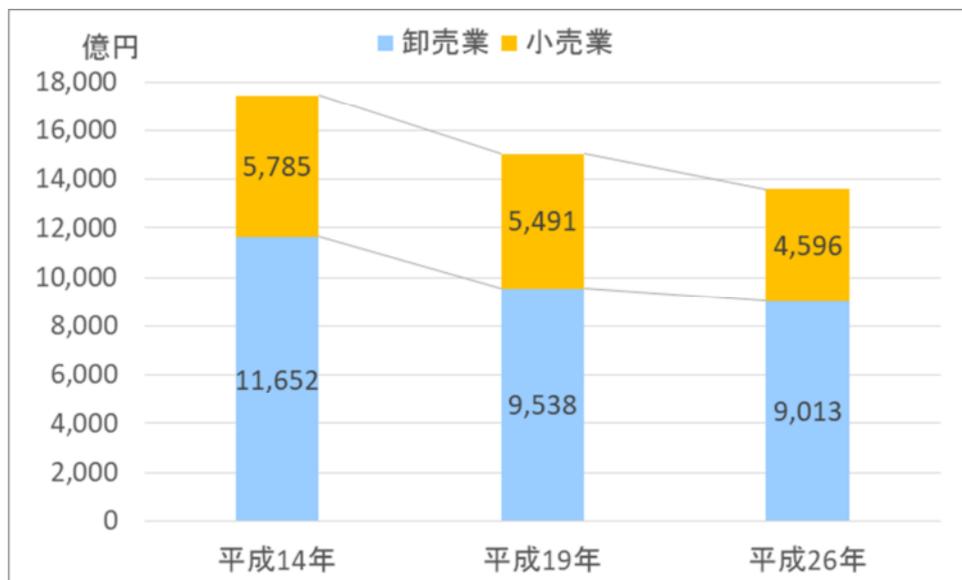
資料: 工業統計調査

図2-10 産業分類別製品出荷額

## 第2章 生活排水対策推進計画策定地域の概要

### 3) 商業

本市の平成 26 年の年間商品販売額は 1 兆 3,609 億円、従業者数は 34,287 人、事業所数は 3,820 事業所であり、いずれも減少傾向となっている。市内には、百貨店、スーパーマーケット、商店街などの商業施設がある。



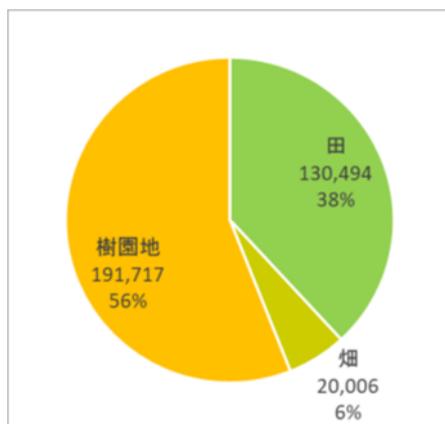
注：飲食店を除く 資料：商業統計調査

図 2-11 商品販売額

### 4) 農業

本市の平成 27 年の経営耕地面積は 342,217a（田 130,494a、畑 20,006a、樹園地 191,717a）で、農業経営体数は 3,454 経営体である。

本市の特徴的な農産物として、温州みかんがあげられる。また、伊予柑の代表的な産地のひとつでもあり、付加価値の高い柑橘類の生産にも取り組んでいる。高原地域ではニューピオーネなどのぶどう栽培も行われている。



資料：2015 年農林業センサス

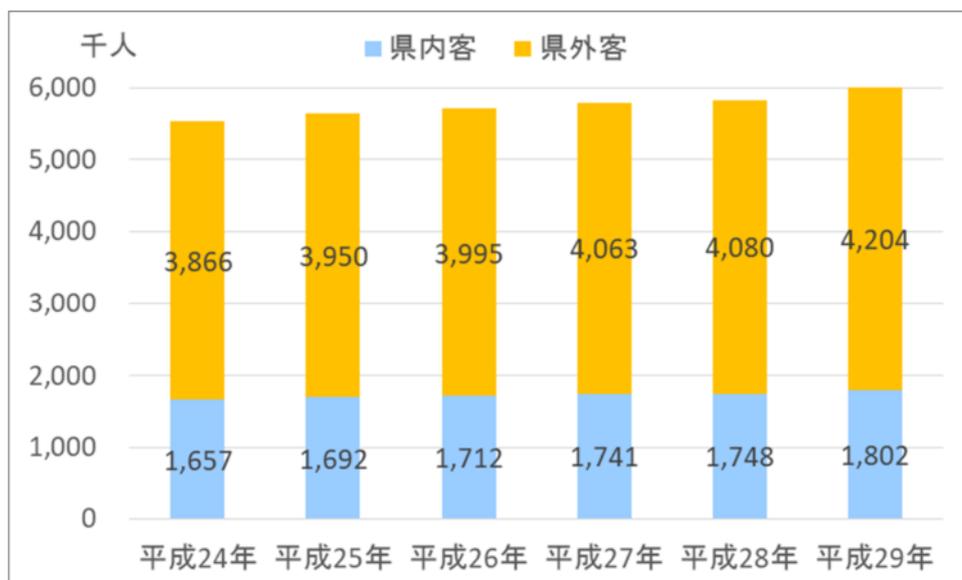
図 2-12 経営耕地面積

## 第2章 生活排水対策推進計画策定地域の概要

### (5) 観光

本市は、日本最古といわれる温泉である道後温泉をはじめ、松山城及び二之丸史跡庭園、子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアム、四国霊場 51 番札所石手寺など多くの観光資源を有している。

平成 29 年の観光客数は 6,005 千人で、5 年連続で増加している。



※ 観光客数は推定値。端数処理を四捨五入しているため総数と内訳が一致しない場合がある。

資料：松山市観光・国際交流課

図 2-13 松山市の観光客の推移



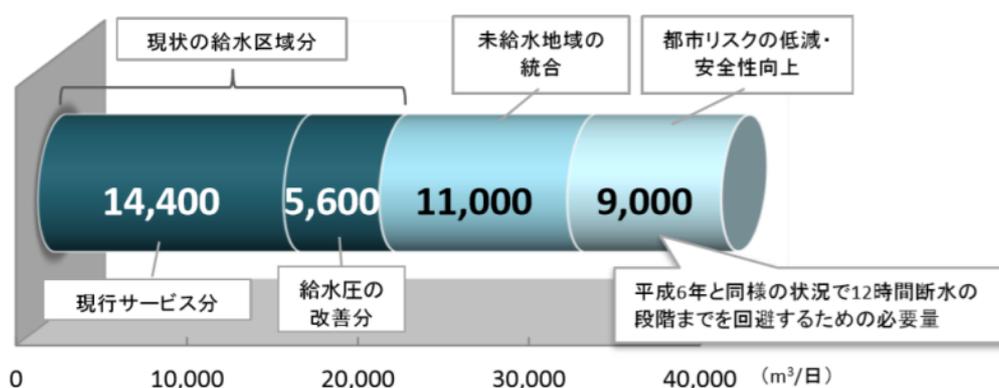
写真 左)道後温泉 右)松山城

## 第2章 生活排水対策推進計画策定地域の概要

### (6) 上水道

本市の上水道の主な水源は、毎年のように渇水調整が行われている石手川ダムと、汚染の危険性があり天候にも左右されやすく水量的にも不安定な重信川の地下水の2つで、水源能力は脆弱であり、従来から水資源対策を市政の最重要課題の一つとしており、節水型都市づくりを積極的に推進している。

本市では、平成29年2月、「長期的水需給計画基本計画」の改訂を行い、水需要について、目標年次の2025年(平成37年)度の一日最大給水量(未給水地域統合後の上水道区域)を171,348 m<sup>3</sup>/日、将来的な社会リスクや都市の安全性を考慮した新たな必要水量を9,000 m<sup>3</sup>/日と予測している。これに対して供給可能量は140,700 m<sup>3</sup>/日であり、その差の40,000 m<sup>3</sup>/日を必要とする新規水源開発量としている。



資料:松山市. 長期的水需給計画基本計画(改訂版). 平成29年2月

図2-14 現在の供給可能量では補えない水量



写真 石手川ダム